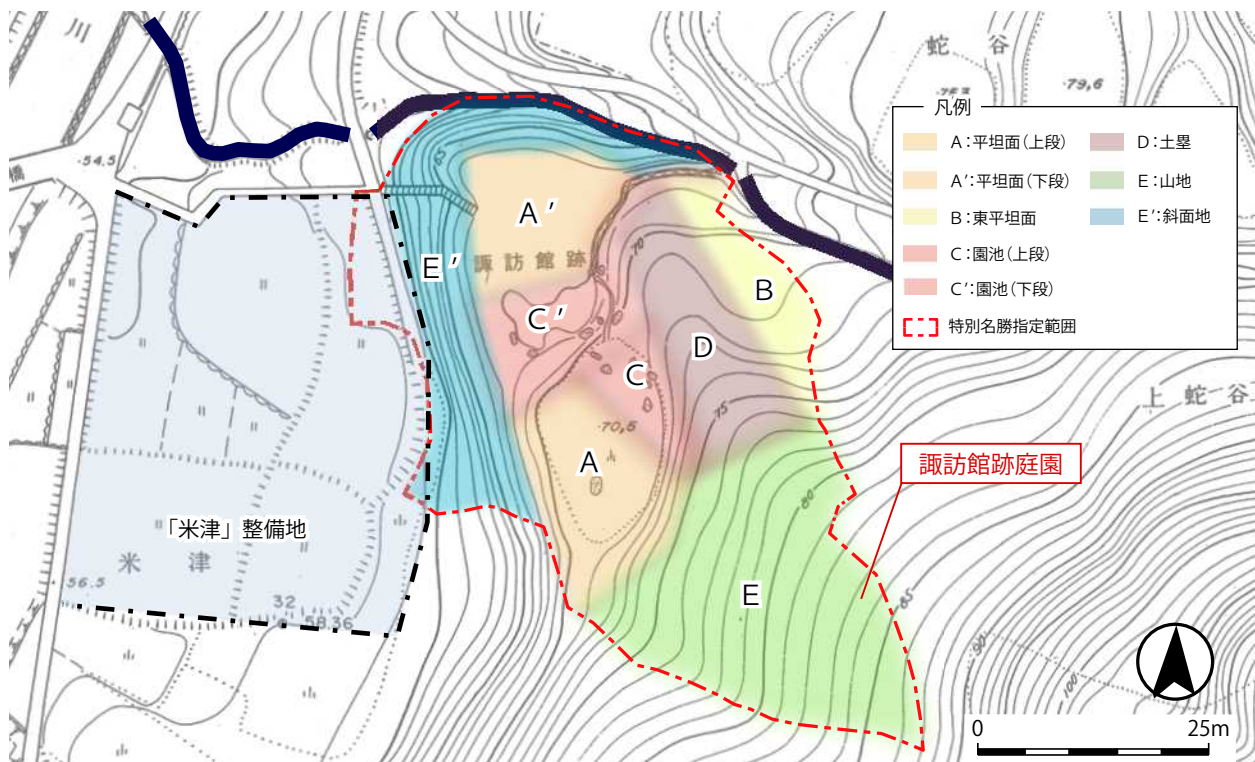


B：諏訪館跡庭園



[図 4-3] 諏訪館跡庭園 地区区分図（福井市基本図（平成4年））に一部加筆

[表 4-3] 諏訪館跡庭園 地区区分の概略

ゾーン	概略	
A	平坦面（上段）	諏訪館跡のうち、上段部に広がる平坦面であり、原位置を保っていると推定される礎石が残存する。「リンズ」と呼ばれる地名の伝承から輪蔵があったと推測されており、その回転軸の受石と考えられる石も現存しているが、平坦面全体が未発掘であり、その詳細は不明である。
A'	平坦面（下段）	諏訪館跡のうち、下段部に広がる平坦面であり、一部礎石と推測される石が残存するが、岩盤の露頭から遺構が残存していないと考えられたため、未発掘の状態である。
B	東平坦面	諏訪館跡と土塁を隔てて広がる平坦面である。
C	園池（上段）	滝石組、湧泉様石組などで構成され、諏訪川から引かれた水は曲水状の流れを経てC'の滝石組に至る。
C'	園池（下段）	滝石組、池汀の護岸石組、景石、橋石組などで構成され、滝石組を落ちた水は石組排水路から諏訪川へと排水される。豪壮な滝石組と、変化に富んだ池の汀が特徴的である。
D	土塁	庭園の背景となる土塁状の高まりで、その上にAやC・C'を囲むように塀が想定される。また、景石と推定される石も配され、土塁東面には石垣が認められるが、未発掘であるため造成時期や範囲は不明である。Cの山側に暗渠遺構が確認されており、諏訪川からC・C'に水を供給している。
E	山地	園池の背景にあたる山斜面でいくつかの平坦面を有するが、未発掘であり、その詳細は不明である。
E'	斜面地	館の北・西側の斜面であり、北側斜面の下方には諏訪川が流れる。園路用の階段が設置されている。

[表 4-4] 諏訪館跡庭園 構成要素（地区区分別）

構成要素		地区区分								
		名勝指定範囲								名勝指定範囲外
		A. 平坦面 (上段)	A'. 平坦面 (下段)	B. 東平坦面	C. 園池 (上段)	C'. 園池 (下段)	D. 土塁	E. 山地	E'. 斜面地	
本質的価値を構成する要素	地割・地形	平坦面	平坦面	平坦面	平坦面	平坦面、斜面	斜面	山麓斜面	斜面	
	石・石組				景石、滝石組、底石（滝口前）、湧泉様石組	景石、護岸石組、滝石組、水分石、礼拝石、橋石組				
	水系				園池、水路	園池、水路			諏訪川	
	植生・植栽									
	構造物						石垣（北側）			
	建造物	輪蔵回転軸の受石								
	その他		眺望（復原町並～上城戸方面）							
埋蔵遺構		顕在化していない未発掘の遺構（一乗谷朝倉氏遺跡に関するもの）								
本質的価値と密接に関わる要素		針葉樹（スギ等）、低木（ツバキ等）	針葉樹（スギ等）、広葉樹（サクラ等）、低木（ツバキ等）	針葉樹（スギ等）	暗渠口、広葉樹（オオモミジ※景観植物）、低木（ツツジ等）	滝副石法名、低木（ツツジ等）	暗渠、針葉樹（スギ等）、低木（ツバキ、ツツジ等）	針葉樹（スギ等）	針葉樹（スギ等）、標識	集水枴・U字溝（諏訪川～暗渠構造）
本質的価値を補完する要素			木製ベンチ、説明板						園路（昇降階段含む）	資料館、管理事務所、便益施設

※埋蔵遺構については、未発掘地もあるため調査が進んでから分類するものとする。

※太字の項目は、[図 4-11] において図示したものを示す。

C：南陽寺跡庭園



〔図 4-4〕 南陽寺跡庭園 地区区分図（「福井市基本図（平成4年）」に一部加筆）

〔表 4-5〕 南陽寺跡庭園 地区区分の概略

ゾーン	概略	
A	外郭	朝倉館を巡る濠。
B	平坦面	七堂伽藍が配されていた平坦面。仏殿、門が平面表示されている。
C	園池	山斜面を背景にした園地。滝石組、護岸石組から構成される。
D	山地	園池の背景も構成する、寺の後背の山斜面。

〔表 4-6〕 南陽寺跡庭園 構成要素（地区区分別）

構成要素		地区区分				
		名勝指定範囲				名勝指定範囲外
		A. 外郭	B. 平坦面	C. 園池	D. 山地	
本質的価値を構成する要素	地割・地形	濠	平坦面	平坦面	山麓斜面	北側平坦面
	石・石組			護岸石組、滝石組、水分石		
	水系			園池、ビクニン清水		瓜割清水（南陽寺跡下）
	植生・植栽					
	構造物					
	建造物		建物遺構			
	その他		眺望（八地谷方面）			
	埋蔵遺構	顕在化していない未発掘の遺構（一乗谷朝倉氏遺跡に関するもの）				
本質的価値と密接に関わる要素			広葉樹（イトザクラ等）、平面表示		針葉樹（スギ等）	
本質的価値を補完する要素			標識、園路（階段含む）、説明板、柵、側溝、歌碑			資料館、管理事務所、便益施設

※埋蔵遺構については、未発掘地もあるため調査が進んでから分類するものとする。

※太字の項目は、〔図 4-13〕において図示したものを示す。

第2節 各庭園における構成要素と課題

庭園の現状及び課題を各庭園の構成要素別にまとめる。

第1項 朝倉館跡庭園

(1) 構成要素

①本質的価値を構成する要素

【地割・地形】

朝倉館跡は北・西・南の三方を土塁と濠に囲まれ、東の山麓には切土による造成と推測される空濠がめぐる。この空濠は、三方を囲む濠と繋がっており、谷水を集めやすい立地環境である。東方の斜面上部には、貯水池を配し、治水と利水双方が計画されている。

園池は、館平地部の東南隅、館に取り込まれた山斜面の山際と、「泉殿」及び小座敷に囲まれた場所に位置する。また、小座敷の西側には、中庭が配され、平庭と花壇がある。

園池の南側に観音山、東側にも山地があり背景となっている。そして、「泉殿」の南側には観音山の山裾に築かれた湯殿跡庭園方面に上がる階段があり、一体的な空間構成が考えられる。

園池の北西側は平坦で、「主殿」や「会所」（常御殿）などを中心とした建物群と園池からつづく水路で構成され、西の唐門から、広場、墓所、建物遺構群を巡って、山際の園池に向かう園路と、北門から「主殿」方向に向かう園路が設けられている。

【石・石組】

園池は池汀の護岸石組、景石、滝石組などで構成されている。滝石組の右手には2m余の大きな石を立てて、滝副石となす。滝の水は上部の貯水池からつづら折れ水路を引いて落としている。また、それに沿った飛石も一部残っている。

滝前には水分石が置かれ、右手前には岩島を配している。これらの要所には特徴的な「安島石（雄島石）」が使用されている。また左方には、橋石組の遺構のみがある。

池底には、川原石を敷きつめており、他の3庭園にはない特徴である。

【水系】

園池東方の山腹に貯水池があり、急峻な山斜面にはつづら折れ水路を引いて、園池に導水している。（平成23年度には斜面崩落の復旧に伴い、つづら折れ水路の修繕とオーバーフロー桝の設置が行われた。）

園池の水は流れを経て、平坦面の石組水路を流れ、濠へと排水される。

【建造物】

外郭部には、北門、南門と西側の唐門があり、唐門は戦国期の西の御門にあたる位置とされる。

園池北西の平坦面には、「主殿」・「会所」（常御殿）・小座敷・「泉殿」・持仏堂・湯殿・蔵・台所・厩・祠・遠侍がある（遠侍と台所の一部、祠は平面表示）。また西側には、射場・射朶・武者溜がある。園池の北側には、茶の湯を催したと推定される小座敷が建ち、西側には酒宴を催したと推定される「泉殿」が建つ。これらが主要な視点場として考えられる。また小座敷・「泉殿」の縁の礎石と園池の護岸石を兼用している箇所があり、間近で鑑賞させたと推定される。さらに中庭の北側には「会所」（常御殿）が位置する。

【構造物】

外郭部をめぐる土塁には、石垣や階段が設置されている。園池の東方の山裾には土留めの石垣と湯殿跡庭園方面に上がる階段が設けられている。井戸には石造の井戸枠がある。

また中庭には、花壇が残っており、笏谷石切石の縁石が特徴的である。「会所」（常御殿）の花壇側の狭間石との対応関係も指摘されている。

【その他】

園池東方の山腹に展望所が設置されており、朝倉館跡全体や復原町並、周囲の山々の景観を眺望することができる。

未発掘地においては地下遺構がある可能性があり、今後の調査が望まれる。

②本質的価値と密接に関わる要素

整備時に植栽された広葉樹、針葉樹や低木、芝地、山地等の庭園の景観形成に資する要素と、唐門横のエドヒガンザクラ等、シンボルとして重要な構成要素となっている植栽もある。

③本質的価値を補完する要素

庭園の価値を伝える説明板や遺構表示石、標識、遺構標柱がある。また活用のために設置された園路、木橋、階段、柵、案内板、便益施設として展望所が配置されている。この他、管理設備で投光灯や集水桝、側溝が設けられている。





〔写真 4-1〕 観音山【地割・地形】



〔写真 4-2〕 濠と土塁【地割・地形】



〔写真 4-3〕 濠と土塁【地割・地形】



〔写真 4-4〕 空濠石垣【構造物】



〔写真 4-5〕 土塁の石垣と階段【構造物】



〔写真 4-6〕 建物遺構群【建造物】



〔写真 4-7〕 義景墓所【本質的価値と密接に関わる要素】



〔写真 4-8〕 エドヒガンザクラ【本質的価値と密接に関わる要素】